

【团体支援寄附】

—全6事業（5団体）—

オンラインによる性暴力被害相談の体制構築

特定非営利活動法人 アットリンク奈良

実施目的

性暴力被害のオンライン相談は、通常の電話相談と違い、お互いの顔を見ながら話すことで、来所面談に近い形での相談が可能になる。外出が難しい相談者が相談拠点などに出向かずに、自宅などの安心安全な場で、リラックスした状態で被害について相談できることを目的としている。

実施内容

- ① オンラインによる性暴力被害相談の実施
- ② 事例検討の実施

<期間>

2023年10月1日～2024年3月31日

<場所>

At Link House(奈良市六条1丁目)

<対象>

- ① 性暴力被害者 及びその家族
- ② アットリンク奈良の相談員

<スケジュール>

- ① オンラインによる性暴力被害相談実施
2023年10月～2024年3月(6回)
※月1回10時～17時(最終受付16時30分)
- ② 2023年10月～2024年3月(3回)
※隔月1回1時間程度

事業の様子



事業総額:

225,620円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人
アットリンク奈良

所在地:

奈良県生駒市
あすか野北3-6-11

代表者:

理事長 竹谷 栄美

設立の目的:

性暴力被害者によりよい支援を提供し、誰もが安心して暮らすことのできる性暴力のない社会を確立すると共に、生き辛さを抱えた人の居場所づくりや、地域への啓発事業を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

実施効果

- ① 相談者数:8名 所要時間計:728分 オンライン相談では、画面を通して対面に近い状態で性暴力の被害について相談を受けることができるため、移動がない分、体調などで外出が難しい場合でも自宅などリラックスした状態で話すことができる。トラウマによる様々な後遺症で孤立しがちな相談者にとって離れたところにも助けや支えを求めることができ、孤独・孤立対策に一定の効果があった。
- ② 事例検討では、それぞれが担当している相談事例を当法人の相談員が集まり検討することで多様な視点で、特に困難な事例に対してもより効果的な対応策の共有をすることができた。

フードバンク体験の寄付事業

特定非営利活動法人 フードバンク奈良

実施目的

子ども食堂や生活が厳しい子育て家庭等を対象に食品を提供する活動を行っているが、生活が厳しい人たちは、食べるだけでなく、体験する機会も失われる傾向にある。そうした人や子ども食堂等の利用者に対し、体験する機会を提供する。

事業総額：

107,868円

補助金額：

107,868円

実施内容

<内容>

みかん狩り体験の実施

<期間>

2023年10月15日～2023年11月30日

<場所>

天理市豊田町の山田農園及び桜井市穴師の中田農園

<対象>

子ども食堂や児童養護施設等のフードバンクの利用者約100人

<スケジュール>

2023年10月 参加者募集

みかん農園の現地確認

2023年11月 みかん狩りの実施

団体名：

特定非営利活動法人
フードバンク奈良

所在地：

斑鳩町法隆寺西
3-1-31

代表者：

代表理事 平川理恵

設立の目的：

市場に出すことができなくても、消費するには十分に安全な食品を企業や農家等から提供してもらい、福祉施設や生活困窮者に届けるフードバンクシステムを構築すると共に、社会の食品ロスの削減に向けた意識の醸成を図る。

事業の様子



実施効果

8団体から約100名の応募があり、青空のもとで、木に実っているミカンを自分の手で収穫し、食べる体験は、子どもたちの食育となった。日当たりや木の立っている位置によって、ミカンの味が違うことを知る学びの機会となった。

フードバンク食品取扱量拡大事業

特定非営利活動法人 フードバンク奈良

実施目的

フードバンクに食品を求めるニーズは年々高くなっているが、食品の寄贈は飛躍的には増えず、ニーズに応えきれない状況になっている。

フードバンク活動への認知度を高めることで、食品の取扱量拡大を図る。

実施内容

<内容>

活動報告書の作成 10月および3月発行

チラシ作成

チラシの郵送

<期間>

2023年10月15日～2024年3月31日

<場所>

奈良県内

<対象>

企業や団体、学校、個人等

<スケジュール>

2023年10月 活動報告書の作成

2023年11月 寄付を呼びかけるチラシ作成

2023年12月 活動報告書及びチラシの郵送 関係機関等での配布

2024年2～3月 活動報告書の作成

2024年3月 関係機関で活動報告書を配布

事業総額:

231,326円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人

フードバンク奈良

所在地:

斑鳩町法隆寺西

3-1-31

代表者:

代表理事 平川理恵

設立の目的:

市場に出すことができなくても、消費するには十分に安全な食品を企業や農家等から提供してもらい、福祉施設や生活困窮者に届けるフードバンクシステムを構築すると共に、社会の食品ロスの削減に向けた意識の醸成を図る。

事業の様子



実施効果

10月および3月に活動報告書を作成し、フードドライブ会場やイベント等で配布。

12月に作成した寄付を呼びかけるチラシとともに活動報告書を500通郵送した結果、61万円の寄付があり、菓子を購入。ひとり親家庭等に配布した。

市民とともに省エネ・節電する市民節電所「まほろば」の活動啓発

NPO 法人市民省エネ・節電所ネットワーク

実施目的

地球温暖化が進み、市民にもその対応が求められている。当会は市民と省エネ・節電する新しい仕組み「市民省エネ・節電所」を提案し、その具体化した市民節電所「まほろば」を実施し、有効性と継続性を実証した。その活動は有効な方策として普及すべきとの高い評価を得たため、今回更なる啓発を行いたい。

実施内容

- ① 行政や企業へ訪問、イベントへの参加
- ② 「まほろばの会」の開催(日頃の活動紹介や情報交換会等)
- ③ まほろば通信特集号(第22号)の発行

<期間>

2023年10月1日~2024年3月15日

<場所>

奈良市西部公民館

<対象>

活動の参加者および地球温暖化対策に関心のある行政及び企業・団体等

<スケジュール>

- ① 2023年10月10日:NPO 団体へプレゼン
 - 10月20日:西部公民館の文化祭へ参加
 - 11月5日:暮らしのブンカサイ in いこまへ参加
 - 11月18日:奈良市、田原本町、奈良中央信用金庫、橿原市訪問
 - 12月5日:奈良県信用保証協会へプレゼン
- ② 2023年12月13日:「まほろばの会」開催(同時に講師によるセミナー)
- ③ 2024年2月:「まほろば通信特集号」を発行

事業総額:

312,227円

補助金額:

190,000円

団体名:

NPO 法人市民省エネ・
節電所ネットワーク

所在地:

奈良市西千代ヶ丘
3丁目22-16

代表者:

理事長 村木正義

設立の目的:

市民等に対し市民のための効果的・継続的な省エネ・節電の方策を提案し、それを実施し、市民の電気・ガス使用量削減、さらにはCO2排出ゼロの実をあげることにより、地球温暖化防止とエネルギー問題解決に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

省エネ活動の参加者の多くが高齢者であるが、今回の活動でさらに継続する元気を呼び起こした。市民省エネ・節電活動の内容、実績が知られ、関心を持っていただいた団体からの問い合わせがこの半年も4件あった。奈良県のジャーナルでも取り上げられ、貴重な情報発信源となった。今後は、奈良だけではなく、「脱炭素につながる将来の豊かな暮らし」を創る新しい国民運動(デコ活)などでも全国に発信を考えている。

聴覚障害当事者の相談支援及び地域とつながる交流事業

空の旅団

実施目的

聴覚に障害のある当事者の相談支援や、手話言語やノンバーバルなコミュニケーション体験交流による相互理解を目的に活動を実施する。

実施内容

聴覚に障害のある当事者の仕事や暮らしの中での悩み事や困りごとなどの相談支援、手話学習会の開催や、劇団メンバーとの交流を行った。

<期間>

2023年12月～2024年3月

<場所>

奈良市西部公民館

奈良県心身障害者福祉センター

<対象>

- ① 相談支援事業 聴覚に障害のある当事者(若年層)
- ② 交流事業 手話学習会 一般 10名
交流体験ワークショップ 4才～一般 15名

<スケジュール>

- ① 相談支援事業 2023年12月2日(土) 奈良市西部公民館
16日(土) 奈良県心身障害者福祉センター
2024年1月20日(土) 奈良県心身障害者福祉センター
2月3日(土) 奈良市西部公民館
17日(土) 奈良市西部公民館
3月2日(土) 奈良市西部公民館
- ② 手話学習会 2023年12月23日(土) 奈良県心身障害者福祉センター交流
体験ワークショップ 2024年2月10日(土) 奈良市西部公民館

事業総額:

192,437円

補助金額:

190,000円

団体名:

空の旅団

所在地:

高市郡高取町
清水谷 384-46

代表者:

主宰 綿井 朋子

設立の目的:

演劇を通して手話言語の表現魅力を発信し、ろう文化の普及と豊かな文化価値の創造を目的とする。

事業の様子



実施効果

① 相談支援事業

主に職場の人間関係など、円滑なコミュニケーションが図れないことによるストレスや困りごとなどの課題についての相談に応じた。手話によるコミュニケーションを図りながら、共感と励ましにより気持ちも元気になる自信を取り戻して前向きな姿勢が伺えた。

② 交流事業

手話学習会の参加者は手話への関心が高く、互いに通じ合う楽しさを体感できた。

手話体験ワークショップでは4才から大人まで15名が参加した。劇団メンバーとの交流も満足度が高く、ろう者への理解と意識向上に繋がった。

引退補助犬支援啓発活動

特定非営利活動法人 日本サービスドッグ協会

実施目的

啓発活動として、会報 66 号を配布することにより、会員や一般の方に引退補助犬飼育ボランティアや当協会の活動について理解を深め、活動に賛同いただける賛助会員を増やす。また寄付や募金箱設置協力店を募集する。

実施内容

会報 66 号を作成し、会員ならびに一般の方に配布することにより、引退補助犬支援活動の啓発及び理解を深め、引退補助犬支援活動への協力を求める。

<期間>

2024 年 2 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

<場所>

日本サービスドッグ事務所

<対象>

会員ならびに一般の方

<スケジュール>

2024 年 2 月 1 日 会報 66 号編集作業開始

2024 年 2 月下旬 会報 66 号印

2024 年 3 月上旬 会報 66 号発送及び配布開始

2024 年 3 月下旬 会報 66 号による引退補助犬支援啓発事業終了

事業総額:

93,500円

補助金額:

57,000円

団体名:

日本サービスドッグ協会

所在地:

奈良県葛城市新村 210

代表者:

理事長 谷口 二郎

設立の目的:

身体障害者に対して社会参加を促し、社会の一員としての自立を確立するために必要となる補助犬の重要性を啓発し、安心とゆとりある社会福祉の増進や、社会教育の推進に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

会報 66 号を作成し、会員ならびに一般の方に配布することにより、引退補助犬支援活動の啓発及び理解を深めることができ、引退補助犬支援活動へのご寄付や募金、及び賛助会員の入会希望者も増えた。

引退した補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)たちへの支援の輪が広がることにより、多くの引退犬たちに介護用品(オムツ・尿取りパット・ペットシート・介護服等)や医療費支援を届けることができた。